

研磨研修で「目に輝き」

～ 埼玉県で教員対象の「刃具研磨研修講座」を実施 ～

8月26日・27日の2日間にわたって、埼玉県の工業高校の教員を対象とした「刃具研磨研修講座」を、浦和工業高等学校を会場として実施しました。

これは埼玉県工業教育研究科機械部会が主催する研修会で、JAMの提案「技能指導を担当している教員にグラインダーによるドリルやバイトなどの切削工具を研磨する技術を身に付けてもらう必要がある」により実施したもので、このテーマの研修会は初めて。

講座の内容は、1日目にグラインダーの取り扱いとドリルとバイトの研磨について基礎自習を、2日目には各種バイトの研磨実習のあと普通旋盤で自分が研いだバイトで用意した課題の部品を切削加工するというもの。

初日のグラインダーへの「砥石」の取り付けから運転までは全員が「なるほど」という面持ちでしたが、いざドリルの研磨が始まると緊張が高まり、おっかなびっくりで作業をする教員もいる状況でした。



＜グラインダーの砥石の取り付け実習＞

それでも1時間ほど経過すると、こわごわ作業をしていた教員もほかに目が輝き、昼休みまで休憩なしに取り組んでいました。



＜実習の様子、ドリル(右上)、バイト(右下)＞

指導にあたった新井誠さん、吉田正吉さんは、「刃物を整備する技能は技能指導する教員には必須」と常々力説しており、講習後の教員へのアンケートでは「自分の技術をもっと磨く必要がある」「このような研修をもっとやって欲しい」という反応が多く見られました。



＜写真右：ドリル研磨を指導する新井さん
写真右：女性教員(右)を指導する吉田さん(左)＞

来年度以降もこうした研修が実施されるよう、JAMとして関係機関に働きかけをしていくことにしています。